

1. 計画説明書（コンセプト）

24 時間 365 日休むことなく街を守り、市民の安心安全のシンボルとなる消防庁舎。
消防庁舎は休むことなく稼働し続け、老朽化しやすいため、機能性と市民に安心感を与える姿を維持し続けることが大切だと考えました。
消防活動の効率性、将来の設備更新に配慮しながら、鎌倉市ならではの安心安全のシンボルになるような消防庁舎を目指します。



7つのメインコンセプト

① 働きやすさを支える庁舎計画 - 人にやさしい快適な庁舎づくり -

消防職員が心身ともに快適に働けるよう、執務や休憩の各空間に細やかな配慮を行い、安心と快適性を兼ね備えた新しい環境を築きます。生活ゾーンは消防職員が心身ともに快適に過ごせるよう、道路から程よく離れた3階のワンフロアへ集約しました。仮眠室や厨房・休憩室を3階の生活ゾーンに集約することで、効率的な動線と快適な生活環境を実現しています。また仮眠室は隊員のプライバシーが尊重されるよう、個室とし、女性隊員も快適に使用できるよう男性隊員ゾーンと切り離れた女性隊員ゾーンを設けた計画としました。



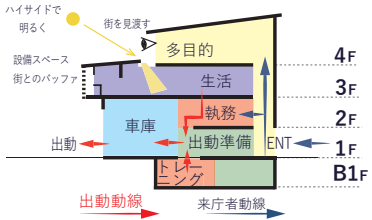
3階休憩室・厨房



仮眠室イメージ

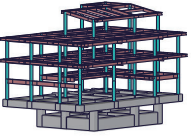
② 消防活動の円滑化 - 出動動線と一般来庁者動線区分の考え -

出動動線と来庁者動線が交錯しないような平面計画です。階ごとにゾーンをまとめる計画とすることで、明快で迅速に出動が可能な計画としています。本計画では階ごとにゾーンをまとめる計画としています。地下1階には訓練・防災設備、1階には出動準備と車庫、2階には最短で出動できる執務ゾーン、3階には、道路から離れ落ち着いた生活ゾーン、4階には街並みを見渡す多目的ゾーンとしている。迅速な出動と確実な連携を実現するため、各階の機能が合理的な関係性のもとで積み重なっています。それぞれ明快なゾーニングによってコンパクトな動線を実現します。



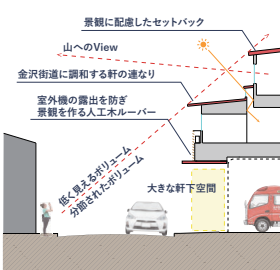
③ 災害リスクに対する備え - 機能し続ける防災活動拠点の考え -

災害発生時には地域の安全を守る拠点となり、消防職員が迅速かつ的確に行動できるよう、建物の耐震性や設備面に十分な配慮を施します。大スパン架構を含むコンパクトなボリュームを実現するため、平面立面計画に制約の少ない鉄骨造の純ラーメン構造を採用し、構造体I類、建築非構造部材A類、建築設備甲類の耐震安全性を確保し、大地震後の消防活動の継続を支えます。鉄骨造の採用により、現場作業を軽減する他、軽量化により基礎工事を軽減し、工事費削減に加え工事中も含めた近隣住民への負荷を軽減します。



④ 周辺に配慮したボリューム - 住宅地と共存するための庁舎計画 -

住宅地が立ち並ぶ周辺環境との調和を図るため、騒音や日影、圧迫感の低減に配慮した計画としました。周辺の住宅スケールに配慮し、周辺建物より高くなる4階部分はセットバックさせ、街並みに対する圧迫感を抑えています。また、南側住宅への影響に配慮し、屋外階段やホースタワーは、視線を適度に遮りながらも大きな壁面として見えないよう、透透性のある素材で覆う計画としました。



ホースタワー・屋外階段イメージ

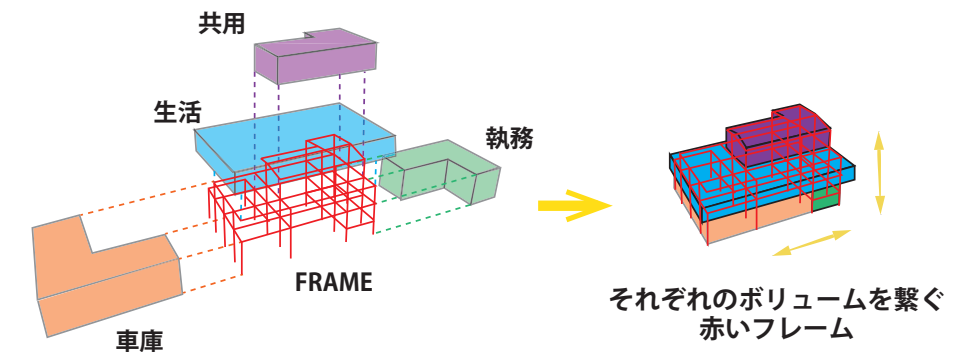
⑤ 地域と共生する消防庁舎 - 人と街に寄り添う新しい活動拠点 -

歴史と文化が息づく鎌倉の風景に寄り添い、住宅が立ち並ぶ周辺環境に調和した計画とします。鶴岡八幡宮の近くに位置する雪ノ下消防出張所は、かつて商人が物資を運んだ歴史ある金沢街道に面しています。この街道は長年、人と街をつなぐ重要な動線として機能してきました。その流れの中で、この消防庁舎も自然と地域に安心・安全を広げる拠点としての役割を担っています。単なる消防活動の拠点にとどまらず、地域住民や訪れる人々に親しまれ、日常の中で安心を感じられる場所であることを目指しました。周囲の街並みのスケール感を取り入れ、鎌倉の景観に調和するようなファサード計画としました。



⑥ 堅牢で安心のシンボル - 消防活動拠点としてふさわしい施設 -

消防活動拠点として災害に強く堅牢でありながら、市民に親しみやすく、安心・安全のシンボルとなる建築を目指しました。赤いフレームを建築の骨格として各機能を強固に結び付け、迅速な活動を支える堅牢な構成としています。内部から赤色が見え隠れることで、鎌倉の奥ゆかしい街並みに調和しながら、災害時に地域を守る力強さと安心感を表現しています。



⑦ 未来に開かれた柔軟な空間 - 多様な働き方に対応する職員環境 -

多様な働き方に対応できる環境を整え、消防職員1人ひとりの力を最大限に発揮できる場を作ります。快適で柔軟な空間が、変化する将来ニーズにも応答します。稼働時間が長く設備更新スパンの短い消防庁舎の更新性を重視した計画です。仮眠室は個別空調とし、室内機と室外機を近接して配置することで、配管・配線を短縮化し、イニシャル・ランニング両方のコスト縮減を図ります。執務空間は車庫や街を見渡せる位置に配置し、円滑な出動をサポートします。広く確保された執務空間は、OAフロアや電設ラックなど将来の変化にも柔軟に対応できる計画としています。



2F 執務室イメージ



設備バルコニー 仮眠室空調について

2. 計画説明書（計画概要）

配置計画兼 1 階平面図

アプローチ

鎌倉らしい奥ゆかしいアプローチとします。



出動準備室

車庫内の中央に設け、救急隊員、消防隊員がそれぞれ迅速に出動できるような計画です。
また執務室から直接繋がる階段を設けることで来客者動線と交錯することのない効率的な動線としました。

車庫

消防車両が北側から南側空地へ移動することが可能な動線。住宅地のため消防車両を南側へ移動し、車庫内で訓練が可能な計画です。



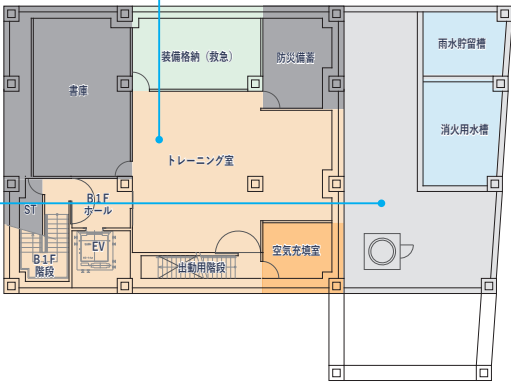
地下 1 階平面図

トレーニング室

地下 1 階中央に位置する、フレキシブルな活用が可能な広々としたトレーニング室です。日頃の体力づくりはもちろん、遮音性に優れた地下空間の特性を活かし周囲への音を配慮して取り組める訓練の場としても機能します。

室内空間と貯留槽を隔てる中間領域

貯水槽からの浸水を防ぎ、排水管経路を設けることができる中間領域を設ける合理的な計画です。



ホースタワー・放水壁
直通階段

直通階段と放水壁を一体とした狭小地ならではのコンパクトな構成にしました。
近隣へも配慮し、大きな壁で覆うのではなく、透過性のある仕上材を使い圧迫感を軽減します。



東側イメージ

4 階平面図

多目的会議室

救急講習や訓練などの消防普及啓発活動を通じて、市民の安全・安心を育む多目的会議室。
周囲の街並みや山々を見渡せるこの場所は消防活動の理解を深める拠点となります。



多目的会議室イメージ

厨房休憩室

生活ゾーンの中央に位置する厨房休憩室では自然とコミュニケーションが生まれるようにオープンな設えとしました。



厨房、休憩室イメージ

仮眠室

隊員のプライバシーを考慮した個室型の仮眠室。木調の落ち着いた雰囲気、リラックスできるような空間。



仮眠室イメージ

会議室ゾーン

街が見渡せる会議室ゾーン。
15 人程度の打合せから少数での打合せまで席配置にてフレキシブルに使用可能な設えです。

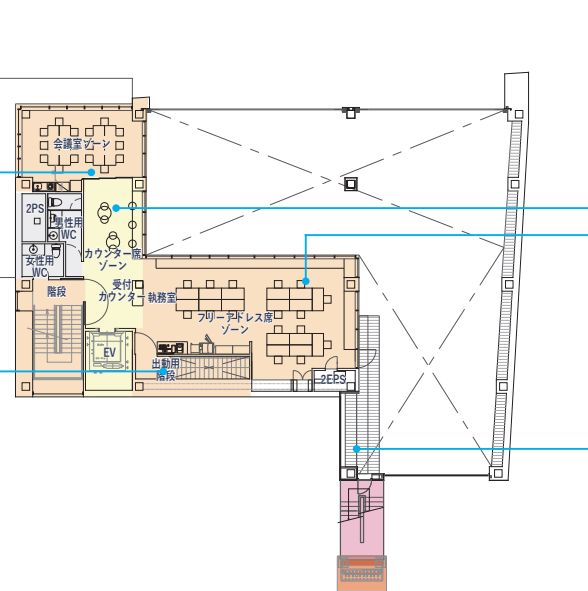
出動用階段

執務室から直接出動準備室へ繋がり、他の動線と交錯することなく迅速に出動することができます。

3 階平面図



2 階平面図



〈敷地条件〉

所在地	鎌倉市雪ノ下四丁目 615 番 2、同番 8、616 番 1、同番 4、585 番 7、同番 9
敷地面積	833.77 ㎡
接道条件	法 42 条 1 項 1 号（県道 金沢鎌倉線）
区域の指定	都市計画区域 市街化区域
用途地域	近隣商業地域 / 第一種低層住居専用地域
許容建蔽率	76.8%
許容容積率	190.4%
防火地域	準防火地域・22 条区域
日影規制	近隣商業地域：法別表第 4（に）欄（2）第一種低層 住居専用地域：法別表第 4（に）欄（1）
その他区域	鎌倉景観地区 / 鎌倉市景観計画区域 宅地造成等工事規制区域 周知の埋蔵文化財包蔵地
上下水道	水道供給可能区域 公共下水道区域

〈建築概要〉

工事種別	新築
用途	消防署
延べ面積	約 1,540 ㎡ [B1 階：約 250 ㎡ 1 階：約 440 ㎡ 2 階：約 190 ㎡ 3 階：約 510 ㎡ 4 階：約 150 ㎡]
主要構造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
基礎形式	杭基礎
規模	地下 1 階 地上 4 階
耐震安全性	構造体：Ⅰ類 建築非構造部材：A 類
の分類	建築設備：甲類
昇降機	1 台（11 名乗り用）

受付カウンター・カウンター席ゾーン

受付カウンターに隣接してカウンター席ゾーンを設けています。オープンなカウンター席ゾーンでは来庁者と職員が打合せ等にも使うことができる場所となっています。

フリーアドレス席ゾーン

窓際に 52 人分のロッカーを並べ、カウンターとしても使えるように計画しました。動き方に合わせて席を選ぶ働きやすい執務室計画です。窓からは車庫内の様子も確認でき、自然と隊員同士のコミュニケーションが生まれます。



執務室イメージ

訓練用キャットウォーク

執務室、直通階段から繋がるキャットウォーク。様々な訓練に使用することが出来ます。